

令和7年度第3回広島市総合教育会議 議事録

1 日時

令和8年1月20日(火) 午後3時00分～午後3時35分

2 場所

市役所本庁舎 14階第7会議室

3 出席者

松井市長

教育委員会：松井教育長、伊藤委員、西委員、一橋委員、砂橋委員、長谷川委員

4 事務局等出席者

企画総務局：企画総務局長、政策企画部長、政策企画課長

こども未来局：こども未来調整課長

教育委員会：総務部長、学校教育部長、指導担当部長、教育センター所長、教育企画課長、施設課長、教職員課長、健康教育課長、指導第一課長、指導第二課長、特別支援教育課長、生徒指導課長

5 傍聴者等

(1) 傍聴者 0人

(2) 報道関係 1社

6 議題（全て公開）

広島市教育大綱の改定について

7 議事の概要

<政策企画課長>

ただいまから、広島市総合教育会議を開催いたします。

本日は、本会議の構成員である市長、教育長及び教育委員の皆様に加え、市長事務局及び教育委員会事務局の職員も出席しておりますが、時間の都合上、配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

それでは初めに、資料の確認をさせていただきます。お手元に次第がございますけども、次第の真ん中下の方にあります枠囲みに記載のとおり、出席者名簿、配席図、資料「広島市教育大綱改定案」、そして、参考資料「広島市教育大綱の改定に係るこどもアンケートの実施結果等について」を配付しております。資料に不足はございませんでしょうか。

それでは、ここからの進行は市長をお願いいたします。松井市長よろしく願いいたします。

<松井市長>

本日はお忙しい中での御出席、ありがとうございます。

前回の総合教育会議におきましては、大綱の改定素案をお示しして、それについて御

議論いただきました。その際に委員の皆様からいただきました御意見を踏まえまして、改定案を取りまとめておりますので、その内容についての御意見をいただきたいというふうに思っております。

それでは事務局から説明をお願いいたします。

<教育企画課長>

それでは、A3横の資料「広島市教育大綱改定案」を御覧ください。

こちらは、第2回総合教育会議において委員の皆様からいただきました御意見と、こども基本法の趣旨も踏まえて昨年末に実施しましたこどもアンケートの結果を参考に作成しております。

資料の構成についてですが、一番左側から現行大綱、続いて二番目が前回の会議でお示した改定素案、その右側が本日御議論いただきたい改定案、一番右側が修正意見等としており、現行大綱と改定素案の変更箇所を下線を、改定素案と改定案の変更箇所を網掛けをしております。また、一番右側の修正意見等の欄につきましては、資料の3ページ以降に記載しておりますが、◎で委員の皆様からいただいた御意見を、○でこどもアンケートの意見を記載しております。なお、こどもアンケートの結果につきましては、いただいた意見のほとんどが既に大綱に盛り込まれているものであり、こどもたちとの認識とのギャップはなかったものと考えておりますが、一部追加で改定案に反映させるものについて、○で記載しているところでございます。アンケートの詳細につきましては、参考資料にまとめておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

本日は、改定案本文のうち、主な改定箇所について、順次御説明いたします。

まず、資料の1ページ目と2ページ目の「はじめに」については、変更ございません。資料の3ページを御覧ください。

「1 本市の目指す教育の方向性」についてでございます。

前回の会議におきまして、体に関する御意見をいただきましたが、本文中に「確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく備えた『心身共にたくましく思いやりのある人』として成長していくことを目指します。」と記載しており、(1)から(5)に示す資質能力の上位概念として、健やかな体を位置付けておりますことから、改定案においては修正を行っておりません。

次に、「2 本市の教育方針」については、修正ございません。

続いて4ページをお開きください。

「3 重点的な取組」についてでございます。

まず、「(1)知・徳・体のバランスのとれた『生きる力』を育む教育を推進します。」については3点ございます。

一番上の一つ目のポツ、体に関する御意見については、先ほどと同様、「基礎的・基本的な学力・体力を確実に身に付ける」と記載がありますので、修正は行っておりません。続いて、こどもアンケートにおきまして「授業にもっとタブレットを使ったらよい」など、ICTの活用についての意見があったことから、「それぞれの教育段階において」の後ろに「ICTを効果的に活用しながら」と追記しております。

また、二つ目のポツに「生成AIの進化への対応、具体的には著作権やフェイクなど

への対応が必要ではないか」という御意見や、「科学的な理解に基づいてという表現を、文末の探究的な学びに関連させてはどうか」という御意見がございましたので、そうしたことを踏まえ、「AI」の前に「生成」と追記し、「必要な情報を的確に取り取り」とし、文末に「ICTを効果的に活用し、科学的な理解に基づく探究的な学びの充実などに取り組む。」と修正をしております。

さらに、一番下の四つ目のポツでございますが、こどもアンケートにおいて食育についての意見があったことから、文末に「また、望ましい食習慣を身に付けることができるよう、食育をより一層推進する。」と追記しております。

続いて、5ページをお開きください。

「(2)こどもたち一人一人がその個性・特性を尊重され、障害の有無や性別、国籍の違いなどに関わらず社会の一翼を担う人材へと成長していくことができるよう、インクルーシブな教育の視点も取り入れた学びの場の提供に取り組めます。」については、一点でございます。

一番下の七つ目のポツに、夏の暑さ対策についての御意見を踏まえ、学校施設の老朽化対策に加え、「暑さ対策」を追記しております。

続いて6ページをお開きください。

「(3)全ての教員が、常に学び成長し続けることができるとともに、いきいきと教育に携わることができるよう持続可能な教職員体制を確保します。」については、一点でございます。

「本文をもう少し能動的な表現にしてはどうか」という御意見をいただきましたので、本文の文末を「持続可能な教職員体制の構築を推進します。」と修正しております。

続いて、7ページ目をお開きください。

「(4)こどもに関わる全ての人々が連携・協働し、こどもの学びを支えるとともに、まちづくりにつながる教育に取り組めます。」については、三点でございます。

二つ目のポツにおきまして、「職業教育のみがキャリア教育であると誤解されるおそれがあるのではないか」という御意見も踏まえまして、文章の前後を入れ替えて、「発達段階に応じたキャリア教育を推進するため、地元企業等での職業体験など、地域や産業界と一体となった取組の充実を図る。」と修正しております。

その下の三つ目のポツにつきまして、「現行大綱に記載のある利他の心や道徳心という言葉を残してはどうか」という御意見を踏まえまして、「利他の心」を追記しております。なお、道徳心につきましては、4ページ目の(1)の一つ目のポツに既に記載しておりますので、ここでは修正は行っておりません。

四つ目のポツについてでございますが、「ライフデザインは多様な価値観に基づくものであることに配慮する必要があるのではないか」という御意見や、こどもアンケートにおいてお金に関する教育についての意見を踏まえまして、文頭を「多様な価値観や生き方を認めつつ、自分の将来を主体的に考えライフデザインの可能性を広げることができるよう」と修正し、各ライフイベントに加えまして、「生涯を見通した資金計画などについて、専門人材も活用した学校内外での学びの機会の充実を図る。」と追記しております。なお、「(1)の位置に位置付けたらどうか」という御意見については、将来のまちづくりを担う人材の育成を学校内外で行うことを表現しておりますため、改定案のと

おり、(4)に位置付けさせていただいております。

最後に8ページをお開きください。

「(5)未来を見据え、持続可能な教育の提供体制の再構築に取り組みます。」については2点でございます。

「本文に質の高い教育を推進するという目的を加筆してはどうか」という御意見を踏まえ、文末に「質の高い教育を推進します。」と追記しております。

三つ目のポツでございますが、「定員調整についての記載は大綱に記載するまでではないのではないか」という御意見を踏まえて、削除しております。加えて、「現行大綱に記載のある特色化・魅力化という前向きな表現は残してもよいのではないか」という御意見を踏まえまして、「一人一人のニーズに応じた多様な学びの選択肢を提供し続けるために、市立学校としての特色化・魅力化に取り組むとともに将来的な学校体制のあり方を検討する。」と追記しております。

説明は以上でございます。

<松井市長>

ありがとうございます。

それでは、お示ししております改定案について、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思っております。長谷川委員からお願いいたします。

<長谷川委員>

前回までの議論を踏まえて、意見をうまく取り入れた大綱になっているというふうに感じております。改めて5年前の大綱と比べてみまして、現代に即した形でモデルチェンジができたのではないかと考えています。

具体的にいくつか挙げさせていただきますと、地球温暖化などの社会変化に関しまして、5年前はSDGsという言葉が使われていたんですけども、今回はそういう言葉を使っていませんが、持続可能な社会である必要性というのは小さなものではないということがうたわれています。私個人的には、委員の先生から御指摘があって今回加筆していただいた「暑さ対策」をきちっと言葉として入れていただいたという点は、非常に意義が深いのではないかなと考えております。

次に、二つ目として技術進歩に関してですけれども、5年前と今で大分変わってるのは生成AIです。AIの言葉はあったんですけども、生成AIが社会の中で大きく注目されているという点が変わってきていると思います。この問題に関しては、やはり将来に向かって存在感が大きくなるばかりですので、我々のように生成AIを初めて取り入れていく時には、「これは間違ってる」とか「これはいいな」と選別できるんですけども、頭から生成AIを学んでいくこともたちからすると、間違っただけのものを選別する能力がなかなか難しいということもあるので、必要な情報を的確に読み取るという姿勢をうたっているのは非常に高く評価しております。

三つ目は、教職員の働き方改革に関して申し上げますと、先生方の御苦労というのも非常に大きく、働き方改革を進めていきたいと思いますというのは、5年前から言われてきたところでございましたが、やはり、心身に問題を生じさせてしまっている教職員の方々

がたくさんいらっしゃるということを直視してですね、その方々が健康で安心して働けるように、そこからの教育だということをうたっている点も高く評価しております。

また、今回、生徒さん方の意見の中で非常に目から鱗だったなと思ったのは、金融教育をこどもさんの方からしてくださいということをうたっている点に非常に興味を覚えました。

正に今、貯蓄から投資ということがうたわれている現代において、何も知識がないと間違った投資をしてしまってそれこそ大変なことになってしまうということですから、小さい頃からそれに親しんでいくということは重要だと思っております。

私の方からは以上です。

<松井市長>

ありがとうございました。

それでは、砂橋委員お願いいたします。

<砂橋委員>

私の方から4点お話しさせていただきたいと思います。

まず、長谷川委員と同じように、私どもの意見を丁寧に酌み取っていただいて、まとめていただき、感謝申し上げます。

意見として前回は申し上げたと思うんですけども、せっかくの大綱を今後5年間かけて温めていくためにも、これを現場にどう広げていくかというPDCAですね。ここをしっかりと回していただくということをお願いします。例えば毎年の事業評価の中で、ここはうまくいっているとかを定点的に観測し、評価していただいて、我々にまたお示しいただけるということであれば、とても大綱が生きてくるということが1点目です。

二点目は、そのためにも学校現場に作り上げたものをしっかりと伝えていくというメッセージですね。どうやって伝えていくかということで、いろいろとやり方はあるかと思うんですけども、分かりやすく絵柄にしていくとか、説明資料などを作っていただくとか、この大綱を読むだけじゃなくて、校長先生が直に学校の先生方に分かりやすく説明できる、手持ち資料と言いましょうか、そういったものがあると良いというところがあります。やはり、この大綱という形だけでは、なかなか伝わりにくいということがありますので、私どももそういう経験をよくしているんですけども、是非そういったメッセージが伝わりやすいツールというものを御検討いただければと思います。

三点目はですね、資料の6ページにも書いてあるんですけども、「全ての教員が学び、常に学び成長し続けることができる」ために何ができるかということ、私はですね、前職の経験からしても、教育センターにおける先生方の教育、これが一番大事なな思っているんです。とかく教育に関しては、経費を削られるであるとか、その成果が見えにくいということもあろうかと思うんですけども、やはり何がしかの手当てをしていただいて、先生方が熱心に学ぶことができる場を作ることが大事ななと。それが、私どもが教育センターを視察させていただいた上で感じたことでございます。そのために、是非とも予算を付けていただいて、直接先生方に還元できる、そういう施策ができればありがたいと思います。

四点目はですね、長谷川委員もおっしゃいましたが、こどもたちのアンケートを非常によくまとめていただいて、1,000件程度の中で自由記述による意見が700件あったと。それを丁寧に掘り下げていただいて、意見の趣旨が大綱に含まれていないものが大きく三つあって、タブレット・コンピューターを使えるということ、それからお金のこと、食育のこと、この三つは生涯に渡って学ばなければならないことなんですね。それがこどもたちの目線から出てきたということが、とても嬉しく思っております。こどもたちの意見がちゃんと大綱に入っているということが一つの訴求効果になりますので、自分たちの意見が生きているというところで、もしかしたら行政や政策に対して、こどもたちも関心を持つてくるんじゃないかと思えます。それと同時に、先生方にも伝えていただいて、こどもたちがこういう意見を言ってくれていると、それを行政はきちんと政策に入れているんだということをメッセージとしていくことで、先生方もこどもたちとの信頼関係と言いますか、良い関係ができると思えます。最後になりますが、アンケートに関しては、今回の成功事例を基に、次回5年後の大綱を検討される際にも、是非ともこういう視点で取り組んでいただけたらありがたいと思っております。

私からは以上です。

<松井市長>

ありがとうございました。

それでは、一橋委員お願いいたします。

<一橋委員>

この度の教育大綱案は、従来の大綱を引き継いでいるところ、すなわち、変えるべきではないという点と、それから現行の大綱を作成してから5年を経過するということで、この間の進化、変化に対応すべき点とで二つに分けますと、まず変わることのない広島市の教育理念というのは、平和教育、これは当然ベースになるわけですが、これを基に、確かな学力、豊かな心、健やかな体、これらは当然のことだと思えますし、さらに、いじめとか不登校対策、それから被爆の実相継承、少子化を見据えた学校体制の構築、こういったところは従来と同じ方向を維持されたというふうに思います。

次に、新しく見直した点というのは、二つほど感じました。

一つは、先ほど来からお話があります生成AIの位置付けを、私から見ると、補助的な位置付けから、いわゆるリテラシーとしての基礎的能力に格上げをされているなど感じました。これは大きな変化だなと思えます。

それから、もう一つはキャリア教育ですね。キャリア教育というと、先ほども御説明がありましたが、職業体験とか地域産業の理解ということが中心であったわけですが、今回、それらだけじゃなくて価値観の多様化を認めるような、将来のライフイベントを描きその資金計画などを学ぶライフデザインへと、キャリア教育の射程が拡張されていると思いました。その中で、利他の心という表現を追加していただいたというのは非常に大きなポイントだと思います。ただ、市の姿勢を示すという意味の大綱ということから考えると、この辺のライフデザインとか資金計画は、少し細か過ぎるなという気が若干いたします。こどもたちのアンケートにもあるということでしたけども、件数も

さほど多いというわけではない。それを今回、こういうふうにして取り込まれたというところには多少違和感がありましたが、しかし、ここは重点的な取組を記述する項目ということで、こういうこともよろしいかなと思います。

今回の大綱は、基本的には非常に穏健な内容になっていると思います。穏健ですけども、今言ったような、新しいところは大胆な改革案を盛り込んでいただいたということでバランスはかなり取れているなと思いますが、二点ほど付議をさせていただきたいと思います。

まず、一点は生成AIです。今後、生成AIを教育理念の中核に据えて大綱などに盛り込まれる自治体はたくさん出てくると思います。そういう意味では、本市は、素案に載っておりますが、時宜を得たものと評価をしたいと思います。ただ、この生成AIは、たかだか令和4年にOpenAI社がChatGPTを広めてから、非常に短期間の間にこれだけ利活用が増えたものです。まだまだ、ここに書いてある適切な正しい利用の仕方というものが、世の中に標準的にあるとは思いません。そういう意味では、こうした技術を盲目的に利用していくというのではなくて、文科省のガイドラインで書いておりますように、人間を中心とした原則、要するに主体的にこれを取り扱うという姿勢が大事かなと思ひまして、その姿勢をうたうところの大綱としては、「主体的」という言葉を是非入れていただきたいと思う次第です。そういう意味では、重点的な取組の中に「適切に活用する」とありますが、「適切かつ主体的に活用する」というふうに付け加えられたらどうかと思っております。

二点目は、あまり大きな変更ではありませんけども、キャリア教育につきまして、単なる職業理解とか職場体験ということに限らず、子どもたちの生きがいとか人生の意義って何なんだ、幸福とは何か、幸せに生きる力とは何かというスピリチュアルなところというのは非常に大事かと思ひますので、いわゆる最近で言うウェルビーイング教育の方にこれから取り組んでいただければよろしいかなと思っております。

以上、私なりにまとめて若干の御意見を申し上げました。終わります。

<松井市長>

ありがとうございました。

それでは、西委員お願いいたします。

<西委員>

私の方からは、改定案の記述を基に二点ほど申し上げたいと思います。

まず一点目は、6ページの重点的な取組の(3)の本文についてです。ここは、先ほど御説明がありましたけれども、「持続可能な教職員体制を確保します」という言い方をもう少し能動的に」と御意見を申し上げましたら、「構築を推進します」という表現に変更していただきました。この表現には大変賛成でございます。意見の意図を十分に酌んでいただけたと思っております。

二点目は、7ページの重点的な取組の(4)の二つ目のポツにあるキャリア教育についてです。「素案の表現では、職業体験がキャリア教育の中心であるかのような印象を受ける、あるいは職業体験のみがキャリア教育であると誤解されるおそれがある」と申しま

したところ、改定案では言葉の順序を変えて、「発達段階に応じたキャリア教育を推進するため、地元企業での職業体験など」に修正していただいております。この表記であれば、中学校の発達段階では、例として職業体験などがあるというふうに読めますので、素案に比べて的確な表現になったと感じております。更に修正するとすれば、小学校におけるキャリア教育の例が書き加えられると、発達段階に応じたことの説明が明確になると思います。例えば、「地元企業等での職業体験など」の前に、まち探検とか社会見学というような言葉を挿入して、「まち探検、社会見学、地元企業等での職業体験など」としていただくと、小学校での教育を視野に入れた表記になるかと思っております。

基本的には、この改定案に賛成でございますが、気になる点も一点ございます。それは、キャリア教育の舞台が社会に限定されているように感じる点です。キャリアの中には、職業キャリアはもちろんですが、生活キャリアという概念もあります。生活キャリアの主な学習舞台は、家庭及び地域でありまして、地域については、まち探検や社会見学、職業体験でクローズアップされておりますが、児童・生徒の生活の足元である家族や家庭生活もキャリア教育の視点から身に付ける必要があると考えます。家族や家庭生活を考える学習は、人間関係作りの基礎として小学校段階でなされるものと考えますと、「発達段階に応じたキャリア教育」という表現や、本文1行目の「全ての人の連携」という表現に家族や家庭生活が内包されているということは理解できます。しかし、このことが、先ほど「まち探検」という言葉の挿入を提案いたしました。その表現で十分汲み取られるのか、少し疑問を抱いております。改定案に大きく修正をお願いしたいとか、付け足してほしいという強い意見ではございませんが、今後キャリア教育を考えていく時に、是非ともそういうキャリア教育の考え方について御議論いただけたらと思っております。

以上です。

<松井市長>

ありがとうございました。

それでは、伊藤委員お願いいたします。

<伊藤委員>

これまでの意見をうまく取り入れて改定案を作成していただき、全体として、現代の社会的要請に応えながら、広島で育つこどもの将来を見据え、どのような力を育み、いかに育ててほしいのかが具体的に理解しやすい教育大綱になっていると思います。重点的な取組では、現行の大綱の内容を踏まえつつも、五つの観点で整理されましたので、広島市として、こどもも教員も一人一人を大切にすることが伝わる内容になっていると考えております。

その上で、この度の改定案を拝見し、一箇所だけ気になるのですが、それは4ページの重点的な取組の(1)の四つ目のポツに、先ほど御説明がありましたようにこどもアンケートからの意見を踏まえて、食育に関する記述が加筆されました。これは大変重要であり、特筆すべき内容であると思います。ただ、この一つのパラグラフの中で、「また」の前の環境教育や防災教育に関する文章と、その後の望ましい食習慣を身に付ける食育

に関する文章との関連が少し分かりにくいように思いました。

このパラグラフの前の三つ目のポツの文章では、平和教育と英語教育を、「また」以降で「グローバル化に対応した人材を育成するため」と関連付ける言葉が入っています。このように、「また」以降で、環境教育や防災教育と食育を関連付ける言葉を加筆してもよいのですが、関連付けが少し難しいように思いますので、もう一つポツを加えて、食育に関する文章を五つ目のポツに移行しても良いのではと思いますがいかがでしょうか。実際に広島市は、食育の充実に取り組んでいますので、食育の項目を独立させる方が、環境教育や防災教育だけでなく、食育も重点的に取り組むことを明示しやすくなるのではないかと考えております。

以上でございます。

<松井市長>

ありがとうございました。

それでは、最後、松井教育長お願いいたします。

<松井教育長>

本日示していただきましたこの改定案については、前回までの会議での議論を踏まえて、必要な修正をしていただいていると思いますし、それから、市内の児童・生徒にアンケートを1,000件程度取った中から出た意見の趣旨を反映して、何点か追加していただきまして、記述についても内容自体は妥当なものかなとっております。

その中で、私の方からは個別の取組に関しての気づきをいくつか申し上げます。

一つ目は、4ページの3の(1)について、先ほどから何人かの委員もおっしゃいましたが、二ポツ目の「A Iの進化を初めとする急速な技術革新への対応」の段落につきましては、元々、素案の段階からこうしたことがこれから特に重要ということで、先ほど、この記載を今回格上げという言い方を一橋委員もされて、この記載を特出ししていただいていたんですけど、細かく見てみますと、ICTの効果的な活用というのは、その一つ前の段落の「個別最適な学び」とか「協働的な学び」を充実していく上でも、実は大きな役割を果たすものでありまして、その辺りをもう少し整理することができないかなと聞いていたんですけど、本日そうした意見を言う前にこどもアンケートの結果を踏まえて、既にイメージどおりの修正を(1)の一ポツにも入れていただいたので、より良くなったのではないかと考えております。この項目に関しては、先ほどの一橋委員の意見にも関連し、市長の「はじめに」の部分にもありますが、本来こういうテクノロジーとか技術というのは、飽くまで手段ということで存在するものはずなので、やっぱりこれを人間の方が人間としてどう使いこなしていくのが良いかといったことを常に意識しながらやっていく必要があると思っております。これは、こどもというよりも、むしろこどもにそうしたことを教える教員の資質・能力の部分も含めて、取り組んでいかなければならないテーマだと思っております。

もう一点は、5ページに今回入れていただきました、一番下にあります「よりよい環境で教育を受けることができるように」ということで、「学校施設の老朽化」や「通信環境の改善」に加えまして、夏の「暑さ対策」を加えていただきました。広島市は学校

の施設数が多いので、一足飛びにというふうにはいかないのかもしれませんが、やっぱり近年、夏季の暑熱対策の重要性が年々高まっておりますので、新しい教育大綱の計画期間の中では、何とかこれもしっかり取り組んでいきたいと思っております。

最後に、8ページ(5)の「持続可能な提供体制」の三つ目のポツにあります高等学校教育につきまして、大綱での書きぶりは今回の案で良いと思っておりますけど、前回の会議でも申し上げましたとおり、これから少子化の影響が高校全体でも大きくなっていく中で、将来の社会を担っていく若者たちのために、できるだけ多様な選択肢を準備して、それぞれの生業なり自立につながる学習や経験ができる機会を提供し続けていけるように、市立高校としての特色化・魅力化にどう取り組んでいくかといったことや、将来的にそれを持続可能なものにしていくために、市立高校が果たす役割をどう考えるかといったことにつきましては、引き続き、来年度改定する予定でございます「広島市ハイスクールビジョン」の検討の中で、更に具体的に委員の皆さんにお示ししていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

私からは以上です。

<松井市長>

ありがとうございました。

多岐に渡る御意見を頂戴いたしました。今回いただいた意見を踏まえまして、最終的な改定を施すというふうにしたいと思ひますが、修正に関しましては私に御一任いただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、大綱の改定に向けた手順を進めていきたいというふうに思ひます。

大綱改定に当たりましては、今年度、3回にわたって協議をしていただいております。そのお陰をもちまして、より充実した内容へと改定ができる目途が立ったんじゃないかなというふうに受け止めております。これまでの様々な御意見、本当にありがとうございました。

今後も、本市が目指します教育を実現するために、教育委員会としっかりと連携しながら大綱に基づく個別の取組を着実に進めていきたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

それでは、時間もまいりましたので、進行を事務局の方に返します。

<政策企画課長>

皆様、本日は教育大綱改定案について御協議をいただきまして、誠にありがとうございました。

総合教育会議につきましては、今後も定期的に開催をさせていただきまして、その中で、本日、砂橋委員からも御意見ございましたように、改定後の教育大綱に基づく取組の進捗状況等についても御報告させていただきたいというふうに思っております。

それでは、本日の会議はこれにて閉会いたします。

どうもありがとうございました。